

平成 30 年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
大学院部会	○	○	○	○	○					
○今年度の取組状況 1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討を引き続き行う。医療薬学研究科では、レギュラトリーサイエンスを基に、時代のニーズに対応したカリキュラムとなっているか引き続き検証する。 社会福祉学研究科では、退任に伴う福祉プロパー教員の減少を解消するために、大学院指導教員への昇格を積極的に進め、指導体制の充実を図った。保健科学研究科では、生命医科学部からの博士前期課程入学に対応すべく、カリキュラム項目を一部増設した。同時に、時代のニーズに対応した内容とすべく引き続き検証する。医療薬学研究科では、レギュラトリーサイエンスを基に時代のニーズに対応したカリキュラムとなっていることを確認している。 2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。 研究科ごとに対応を検討した。定員充足率は、社会福祉学研究科 修士課程 15%、連合社会福祉学研究科 博士（後期）課程 100%、保健科学研究科 博士（前期）課程 79%、保健科学研究科 博士（後期）課程 56%、医療薬学研究科 博士課程は 63%となっている。 社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリング時に広報活動を行っている。また、修士課程の定員 20 名が適切であるのかが検討課題として挙げられる。保健科学研究科では、職能団体の会合にて社会人への広報活動を行った。医療薬学研究科では、研究科内で、社会人に向けた広報活動の不足が指摘され、今後の対応について検討している。 3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図る取り組みを継続して行っている。社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用して、福祉現場との連携強化を図る取り組みを継続して行っている。保健科学研究科では、在籍している院生を介して医療現場への研究指導を行い、連携を強化しつつある。医療薬学研究科では、臨床研究力の向上を目指し、大学院と医療現場との連携強化を図っている。 ○来年度の計画案 1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。 2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。 3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。										